

## 中山間地域

### 目指す姿（10年後）

- 中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材が、将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジを行っています。
- 地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が広がるとともに、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されています。  
 そこから、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながる様々な取組が広がっています。
- 多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジし、働き続けられる環境が整いつつあります。
- 医療・福祉、交通などの日常生活の安心に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、「スマート里山・里海」に向けたモデル的な取組が中山間地域全域で展開されています。とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム 500」の登録人数	345 人 (R1)	783 人 (R6)	680 人	1,000 人
中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	54 社 (R6)	290 社	320 社
デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	22 件 (R6)	10 件以上	10 件以上 〔普及展開〕 20 件以上
地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	—	12 市町 (R6)	19 市町	19 市町

主な取組

● 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大

- **元気さやま応援プロジェクト**補助金活用件数 40 件(累計 168 件)

● 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

- **進出決定企業**数 10 社(累計 57 社)

● 中小企業の成長支援

- **外部人材活用セミナー**の開催回数 9回

● デジタル技術を活用した暮らしの向上

- **デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業**補助金活用件数 22 件

● 持続可能な生活交通体系の構築

- デジタル技術を活用しながら、交通と生活サービスの相乗効果を生み出す「**広島型 MaaS**」の推進

● 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

- **現況1車線バス路線区間**の道路整備

## ① 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大

### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 地域社会やコミュニティの中で、人と人がつながり、支え合う価値を大切にするため、地域における多世代のつながりや交流を促進するとともに、多様な主体が連携・協働して支え合える地域づくりを進めます。また、地域への愛着や誇りの醸成に向けて、地域において一歩前に踏み出すための様々なチャレンジを行っている人たちの活動を地域全体で後押しし、共感の輪を広げていきます。
- 地域づくりのフィールドワークやノウハウを学ぶ人材養成塾などを通じて、地域に根差した活動やコミュニティビジネスなどに取り組む人材の裾野を拡大し、中山間地域の将来を担うリーダーを育成します。
- 意欲ある実践者を中心とした人材プラットフォームを基盤として、里山・里海の豊かさを継続的に発信するとともに、その価値に共鳴し、地域と多様な形で関わる首都圏等の関係人口を拡大していくことにより、中山間地域を内外から支える人材の広域的なネットワークづくりを進めます。
- 人口減少下にあっても、地域の実情に応じて、主体性を発揮しながら地域づくりに参画できる最適なコミュニティのあり方を検討し、市町と連携して、日常生活の安心につながる持続可能な地域運営の仕組みづくりに取り組む地域を後押しします。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
チーム500の新規登録者数	目標	75人	75人	75人	75人	75人
	実績	116人	114人	130人	76人	
	達成状況	達成	達成	達成	達成	

### 【評価と課題】

- チーム500の新規登録者数については、「ひろしま<<ひと・夢>>未来塾」など地域づくり実践活動推進関係事業の参加者等に対する登録の働きかけ等によって、4年連続して年間目標値を上回る結果となっているが、チーム500登録者に対する市町や地域関係者の認知度が低く、それらのつながりづくりが課題となっている。
- チーム500登録者の多様な活動を促進するため、補助金による活動支援に継続的に取り組んだ結果、活動数は着実に増加したものの、地域の担い手不足等への対応が重要であることから、中山間地域の課題解決に向けて、都市部住民など地域外の人材と地域住民等が協働して取り組んでいく仕組みづくりが必要である。
- 人口減少、集落の小規模化などにより、継続が困難となった活動を支援する地域運営の新しい仕組みづくりの後押しについては、将来への備えに向けた地区・集落での話し合いをサポートする人材を地域に派遣する等、市町と連携しながら支援体制の構築等を進めている。

- 【主な事業】・ ひろしま里山・人材力加速事業……………459 ページ  
 ・ 元気さとやま応援プロジェクト……………461 ページ  
 ・ 集落対策推進費……………465 ページ

#### 【令和7年度の取組】

- 持続可能な中山間地域の実現に向けて、これまで、中山間地域で地域づくりに取り組む人や活動をつなぐプラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」を軸に、主体的な地域づくり実践活動の拡大を進めてきた。  
こうした中、県全体を上回るスピードで人口減少が進み、無住化リスクを抱える中山間地域においては、地域の持続可能性を確保する上で、より地域に根差した人材の育成確保が急務となっている。  
このため、令和7年度は、「ひろしま〈ひと・夢〉未来塾」など地域づくり実践活動推進関係事業において、地域づくりに取り組む人と地域とのつながりづくりを強化するとともに、中山間地域の振興対策を地域内外の人々の理解の下で効果的に進め、中山間地域の住民自治組織の活動維持につなげていく。
- 持続可能な地域運営の仕組みづくりについては、令和7年度も引き続き、市町との密接な連携の下、地域住民を対象とした勉強会等により意識啓発を行い、地区・集落等での話し合い着手に向けて取組を進める。
- 話し合いの実施に当たっては、合意形成のサポートを行う中間支援人材を派遣するとともに、必要な対応の選択がなされた地区・集落等については、市町や関係局と連携し、生活サービス確保などに向けた取組への支援を行う。

## ② 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や仕事も暮らしも充実させるワークスタイルへの関心の高まりを受け、里山ならではの環境やアクティビティを生かした生活の豊かさを先取りできる地域として、広く情報を発信します。
- 働く場所に捉われないIT関連企業を中心に、サテライトオフィスの誘致に取り組む市町を支援します。
- 中小企業の人材確保に向けて、即戦力となる県内外の専門人材(エンジニア等)とのマッチングの仕組みを構築します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
サテライトオフィス進出決定累計件数	目標	25 件	39 件	54 件	69 件	84 件
	実績 (累計)	27 件	38 件	47 件	57 件	
	達成状況	達成	概ね達成	未達成	未達成	

### 【評価と課題】

- サテライトオフィスの進出について、環境の良さなど地方ならではの利点は理解されるものの、「地方進出により事業を発展させられるか」という観点から進出につながらなかった例や、地方拠点を必要としない企業も一定数存在することなどの理由により、目標には届かなかった。
- 進出検討企業のニーズとして、地元事業者との連携などがあることから、市町の庁内関係各課の連携体制の強化や地元事業者とのネットワーク強化を進めることで、企業の進出確度を高める必要がある。

### 【令和7年度の取組】

- 企業の地方進出を促進するため、地域課題や産業構造等を踏まえた市町の誘致方針の明確化や、誘致に係る市町の庁内関係部署の連携支援に加え、企業誘致の際に協力が得られる事業者の掘り起こし等を行うことで、市町の誘致交渉を支援する。

### ③ 中小企業の成長支援

#### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 意欲ある事業者の新たな成長を後押しするため、多様なスキルや専門的な知見を生かして企業の課題解決に貢献しようとする首都圏等の副業・兼業人材と地域の事業者のマッチングの仕組みづくりに取り組む市町を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
副業・兼業人材の活用に向けたセミナー参加企業数	目標	83社	131社	131社	121社	111社
	実績	13社	135社	220社	309社	
	達成状況	未達成	達成	達成	達成	

#### 【評価と課題】

- 令和6年度は、前年度に引き続き、セミナーの開催方式をオンラインではなく対面で開催し、関係市町や地域経済団体等(商工会等)と連携しながら実施した。この結果、セミナー参加企業数は3年連続目標を上回り、副業・兼業人材活用の認知度及び有効性について理解が進んできた。
- 一方で、新しい経営手法の取込みや経営改革に積極的に取り組むことが期待される若手経営者等へ働きかけを行ったが、活用イメージの具体化が十分に進まなかったこと等により、中山間地域副業・兼業人材活用支援事業補助金の活用実績が少ないなど、副業・兼業人材の実活用は十分に進んでいない。

#### 【令和7年度の取組】

- 地域経済団体等との連携を継続しながら、副業・兼業人材活用について意欲が高いと想定される商工会の青年部等に対し、重点的にアプローチを行う。また、セミナーについては、実際に副業・兼業人材を活用された事例を動画で紹介することで具体的な活用イメージを持ってもらうとともに、実際の活用には、エントリーシート作成や応募者の選考など、実活用に向けたフォローを行う。
- 地域経済団体等と連携しながら、市町に対する事業説明会や有益情報の提供を継続的に行うとともに、補助金制度の周知、事業者への支援策づくりの働きかけ等を行い、市町の主体的な事業推進体制の構築・強化を図っていく。

#### ④ デジタル技術を活用した暮らしの向上

##### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- ウイズ/アフターコロナ時代において、将来にわたって安心して暮らしを営むことができる環境を維持していくため、暮らし全般にわたる全体最適を目指す「スマート里山・里海」の実現に向け、日常生活に直結する様々な分野において、デジタル技術を活用した新たな生活サービスを導入しようとする市町を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
県の事業を通じ、デジタル技術を活用した課題解決に向けて取り組む件数(累計)	目標	4件	6件	8件	10件	10件以上
	実績	3件	8件	13件	22件	
	達成状況	未達成	達成	達成	達成	

##### 【評価と課題】

- 令和6年度は、「デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業補助金」を活用し、7市町が新たな生活サービスを導入した。
- 一方で、これまでの先行事例の情報提供などを通じて、活用に至っていない市町の事業化を後押ししてきたが、市町職員のマンパワー・専門知識不足により、取組に着手できていない市町がある。
- 今後は、これまでの先行事例の情報提供などを通じた、活用に至っていない市町の事業化の後押しを行うとともに、横展開につながる助言等に取り組んでいく必要がある。

【主な事業】・ デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業……………467 ページ

##### 【令和7年度の取組】

- デジタル技術の活用に必要な市町職員のマンパワー及び専門知識の不足を補うために、課題分析や成果測定指標の設定等に係る伴走支援を継続しつつ、補助金活用先行事例のみならず全国の優良事例の情報提供や、技術的な助言等を行うことで、更なるデジタル活用事業の創出を図る。
- これまで実装が完了した課題解決の取組モデル(22件)等を、共通課題を抱えている市町へ普及展開し、「スマート里山・里海」の実現につなげていく。

## ⑤ 持続可能な生活交通体系の構築

### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 地域の実情に応じた効率的で持続可能な交通体系の再編に取り組み、交通計画を策定する市町を交通会議の場などにおいて支援します。
- デジタル技術を活用した MaaS など、新たな交通サービスの導入に向けた取組や、住民自らが主体となって地域の移動を支えていくための取組への支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促します。
- 地域住民にとって必要不可欠な生活交通を維持・確保するため、国や市町と連携して、幹線等のバス路線や主要な航路等の運行等を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(累計)	目標	7件	11件	15件	19件	19件
	実績	7件	11件	15件	22件	
	達成状況	達成	達成	達成	達成	

### 【評価と課題】

- 令和6年度は、広島型MaaS推進事業をはじめ、「地域公共交通ビジョン」と連動して交通以外の分野との共創が進んだことにより、6市町(7件)で、新たな交通サービスに向けた取組が進んだ。
- 引き続き、市町の地域公共交通計画の策定を支援する中で、持続可能な生活交通体系を構築していく必要がある。

【主な事業】・ 広島型MaaS推進事業……………471ページ

### 【令和7年度の取組】

- 交通空白地域における移動手段を確保するため、県が主体となって実施している「新たな移動サービス調査」をはじめ、利便性と持続可能性が高い交通サービスの調査・実証を行い、市町への横展開に取り組む。

## ⑥ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

### 【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 中山間地域に住む人が、安全で快適な生活を享受できるよう、地域拠点と集落等の間を連絡するネットワークとなる基盤整備に取り組みます。
- バス路線1車線区間の解消に向けた取組など、地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
現況1車線バス路線区 間延長 (交通量 500 台/日 以上)	目標	36.8km	32.5km	32.3km	32.3km	31.2km
	実績	36.8km	32.7km	31.9km	31.9km	
	達成状況	達成	概ね達成	達成	達成	

### 【評価と課題】

- 「広島県道路整備計画 2021」に基づき、現況1車線バス路線区間の道路整備に取り組んでおり、計画どおりに進捗していることから、目標を達成した。

【主な事業】・ 道路改良費……………322 ページ

### 【令和7年度の取組】

- 生活交通であるバス路線において、狭隘区間を解消し、バス等の安全性・定時性を確保し、サービスの維持を図るため、引き続き、現況1車線バス路線区間の道路整備を推進する。